

「原発・核燃・プルトニウム利用を止めて下さい」署名に参加するに際して

若狭連帯行動ネットワーク

首相および衆・参議院議長に「原発・核燃・プルトニウム利用を止めて下さい」と求める全国署名が8月末に呼びかけられました。原発再稼働中止と原発ゼロを求め、再処理中止・プルサーマルや高速炉計画などプルトニウム利用中止とプルトニウムゼロを求める内容は積極的であり、積極的に支持し取り組みたいと思います。

しかし、「使用済み燃料と高レベル廃液を早急に安全保管してください」という要求項目が、他の要求項目と切り離されて一人歩きし始めると、無用な混乱を招きかねません。この要求項目は、「使用済み燃料と高レベル廃液をこれ以上、新たに生み出さないでください。脱原発の下で、これらを安全に保管してください」へ変更し、もしくは、その趣旨であることを明示すべきだと考えます。

というのは、原発サイト内プールが満杯に近づいているため、むつ市乾式貯蔵施設への使用済燃料試験搬入や出資参加をはじめ、電力会社はサイト内外で使用済燃料乾式貯蔵施設の立地を進めており、「10年以上冷却して自然冷却が可能になった使用済燃料を乾式中間貯蔵施設へ移してプールを空け、崩壊熱の高い使用済燃料を炉内からプールへ取出せるようにする」方策が電力会社によって進められているからです。

プール冷却失敗による燃料溶融事故は、炉心から取出されたばかりの崩壊熱の高い使用済燃料によって引き起こされる事故であり、自然空冷可能なまでによく冷えた使用済燃料がプールを満たしていても、そのために燃料溶融事故のリスクが高まることはありません。よく冷えた使用済燃料が乾式貯蔵へ移され、プールの空いた場所に崩壊熱の高い使用済燃料が供給されれば、逆にプール冷却失敗事故のリスクが高まるのです。福島第一原発事故で問題になった4号炉では、事故直前に定期点検のため炉心燃料がすべてプールへ移されていて、プールの冷却水がなくなれば、溶融事故を引き起こす恐れがありました。この溶融事故の危険性と、プールで十分冷却された使用済燃料による長期的な放射能漏洩の危険性とは区別する必要があります。再稼働していない原発や廃炉になった原発では、使用済燃料が7年以上プールで冷却されているため、崩壊熱も十分下がっており、「電源喪失で日本滅亡」というリスクはほとんどありません。

よく冷えて自然空冷が可能になった使用済燃料ならプール貯蔵から乾式貯蔵へ移せますが、崩壊熱の高い使用済燃料は空気中に放置すると溶融してしまうため、乾式貯蔵へは移せません。もし、よく冷えた使用済燃料を「早急に」乾式貯蔵へ移せば、熱い使用済燃料に置き替えられ、プール事故の危険を高めるだけです。

乾式貯蔵キャスクも、50年程度が寿命とされていて、その寿命を伸ばすには、より長期のプール貯蔵で使用済燃料の崩壊熱をできるだけ下げ、放射線をできるだけ少なくする必要があります。そうすれば、キャスク貯蔵に伴う労働者被曝も少なくでき、キャスクの劣化も抑えられ、乾式貯蔵の安全性も高まります。

他方、再処理で生じる高レベル廃液は、極めて高い濃縮廃液であるため、冷却失敗事故の危険はより長期間続きます。ガラス固化で薄めて保管する以外にないのですが、ガラス固化で空いたタンクへ廃液が供給され続けられれば、リスクは下げられません。六ヶ所再処理工場を閉鎖して、高レベル廃液をこれ以上生み出さないことが先決です。

いずれにせよ、「使用済み燃料と高レベル廃液を早急に安全保管してください」の要求は、リーフレットにあるように「脱原発とセット」であることを明確にし、「一刻も早く」取るべき「対策」は、原発再稼働と再処理を中止して「使用済み燃料と高レベル廃液をこれ以上、新たに生み出さない」ことだということを明確にすべきです。

私たちは、「使用済み燃料と高レベル廃液を早急に安全保管してください」という要求項目は、最初の2つの要求項目＝原発再稼働中止・再処理中止と不可分だと理解し、「使用済み燃料と高レベル廃液をこれ以上、新たに生み出さないでください。脱原発の下で、これらを安全に保管してください」の趣旨だと位置づけ、そのように主張しながら、署名運動に参加していきたいと考えます。

(2018年8月31日)